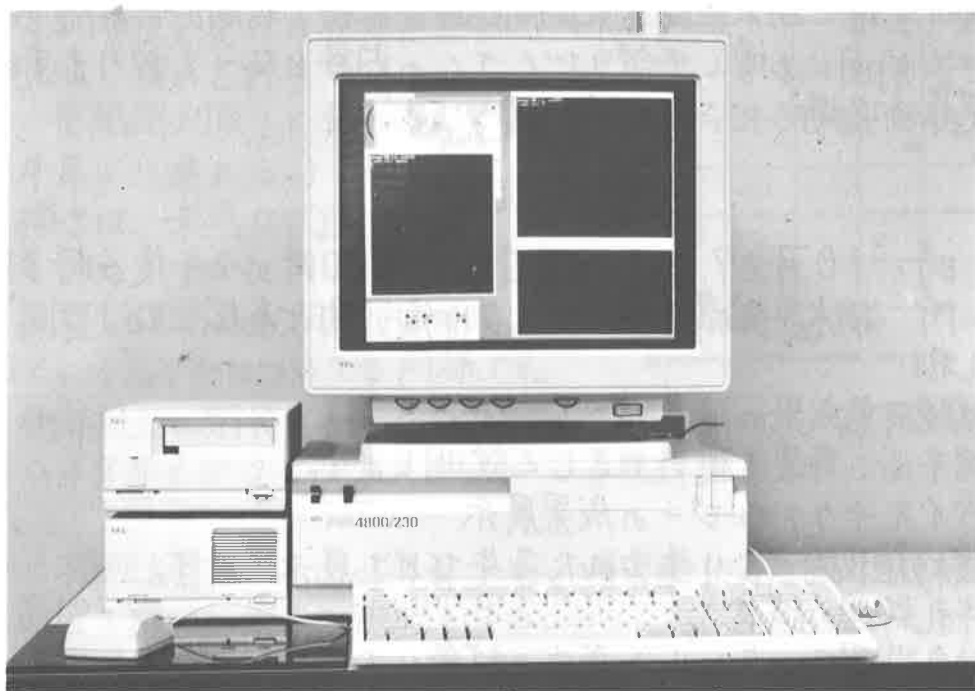




# 酪農試験場だより

No. 58



当場新規導入コンピュータEWS4800

## 内容紹介

- 1 第7回酪試公開デーの御案内
- 2 夏作の収穫と冬作の播種
- 3 飼料特性(綿実・ビートパルプ)

## 第7回 酪試公開デーの御案内



一育び! 豊かなみどりと夢ある酪農

当場では、バイオテクノロジーを応用した「牛の核移植によるクローン牛の生産」など最新技術の開発や、酪農に関する各種試験研究・事業を行っています。このたび、その成果を広く県民の皆様に御覧いただき、酪農試験場についての理解と認識を深めてもらうため、第7回酪農試験場公開デーを下記により開催します。また、当日は第6回栃木県ホルスタイン共進会(主催: 栃木県酪農業協同組合連合会)も同時に開催されるなど、前回にも増して盛りだくさんの内容となっておりますので、是非御来場ください。

### 記

1. 日時 10月27日(水曜日) 午前10時から午後3時まで
2. 場所 栃木県酪農試験場 (西那須野町千本松298)
3. 催し物

#### ▶ 試験研究成果の展示

パネル、写真を使いやすく説明します。

#### ▶ バイオテクノロジーの成果展示

核移植技術により生まれた子牛などを展示します。

#### ▶ 牛乳料理の試食

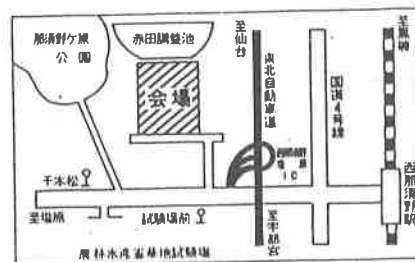
牛乳料理コンクール入選作を試食していただきます。

#### ▶ 搾乳体験、ふれあい牧場、ポニーの馬車(幼児用)

実際に乳しぼりが体験できます。またかわいい小動物やポニーの馬車も待っています。

- ▶ その他、手作りバターの実演等畜産物の消費拡大の催し物、児童の絵画展示、酪農機具、動物用医薬品、器材の展示など、いろいろな催し物が皆様をお待ちしています。

#### ● 交通のご案内



- JRバス塩原行  
試験場前下車徒歩10分
- 東北自動車道  
西那須野塩原インターから2分

## 夏作の収穫と冬作の播種



今年の夏は、昭和63年以来の冷夏でした。低温と日照不足、湿害によるトウモロコシやソルガムの生育不良が心配されます。

図1はトウモロコシの草丈を調査したものです。播種期が遅れるほど生育が悪く、最も早い4月23日播種でも乳熟期、5

月下旬以降では乳熟にも至っていない状態でした。また、6月播種では県北部で特に生育が悪く、収穫、播種作業への影響が心配されます。今後、夏作の収穫に際しての留意点は、次のとおりです。

- ① 極力、黄熟期刈取りに努める。(適期は平年より遅れる。)
- ② 6月播種は、未熟な状態で収穫する場合も考え、サイレージ用添加剤や水分調整資材等をあらかじめ用意しておく。ソルガムについても同様です。

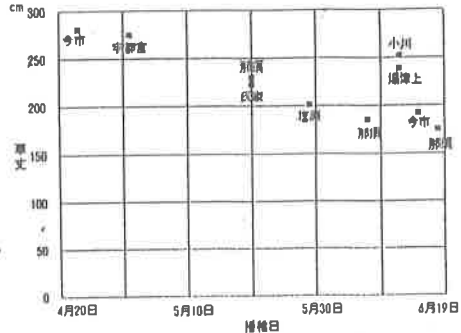


図1 トウモロコシ (P3352) の生育状況 (8月17日調査)

次に例年以上に期待をかけたい冬作の播種について、最も作付けが多いイタリアンライグラスについて多収栽培のポイントを挙げます。

- ① 適期に播種を行う。(県北9月下旬、県中南10月上旬)
- ② 優良品種を用い、適正な施肥をする。

例) N-P-Kを成分で各10kg/10a、苦土石灰100kg/10a、ヨウ素50kg/10a、堆肥2t/10aを施用し、フセアオバまたはタケフセを2kg/10a播種。

- ③ 播種後、よく鎮圧して定着をはかる。
- ④ 除草剤を散布して冬雑草を抑える。(播種後45日ごろ、MCPY-ダ塩を10a当たり300ccを散布(70~100Lの水に薄めて))

イタリアンの播種は県北部では10月中旬が限界です。又トウモロコシの収穫遅れや天候不順等で作業がずれ込む場合は、麦類との混播あるいは麦類単播等、寒さ対策も考えなければなりません。夏作の生育状況をよく観察し、早めに播種計画を立て準備するようにしましょう。詳しくは最寄りの普及所または酪農試験場におたずね下さい。

## 飼料特性 (綿実・ビートパルプ)



乳牛の飼料には多くの種類があり、その特性も異なっています。今回は綿実とビートパルプについて取り上げ、その特性について紹介します。

綿実は綿の種子であり、成分は表1のとおりで、粗脂肪が粗蛋白質と同水準含まれているためにエネルギー価はトウモロコシ以上で、乳脂率の向上や産乳の持続性に貢献します。

表1 綿実の成分 (現物%)

DM	CP	DCP	TDN	CF	Ca	P	NDF	ADF
91.7	19.8	14.7	80.9	23.7	0.18	0.38	40.4	32.0

給与量：綿実の給与試験を実施した結果、泌乳初期で平均1日1頭当たり3.4kgの摂取量で、良好な産乳成績を示した例(供試飼料中の綿実の混合割合：12%)もありますが、1日1頭当たりの給与量としては、2kg以下を目安にするとよいでしょう。

次にビートパルプですが、これはてん菜から砂糖を製造する過程で生ずる副産物です。成分は表2のとおりで、嗜好性がよく乳牛用飼料として広く利用されています。粗繊維含量が多く、イネ科やマメ科の粗飼料に比べ粗繊維の消化性に優れ、良質の繊維補給源です。Caは多いのですがPは少なく、多量に与えるときにはP不足に注意する必要があります。

表2 ビートパルプの成分 (現物%)

DM	CP	DCP	TDN	CF	Ca	P	NDF	ADF
88.3	9.0	4.5	65.9	17.0	0.51	0.10	47.4	24.5

給与量：1日1頭当たり6kg給与し、乳脂率を維持している酪農家もありますが、過給するとRVI(粗飼料価指数)が下がる場合もありますので、1日1頭当たり4kg以下を目安にするとよいでしょう。

酪農試験場だより No.58

平成5年9月1日

栃根酪農試験場

〒329-27 西那須野町十本松298

電話 0287-36-0230